

東洋炭素
2006年5月期 決算説明会

C × TOYO TANSO = ∞

2006年7月18日

目次

1.	企業紹介	P.2
1-1.	企業概要	P.3
1-2.	製品・分野紹介	P.4
2.	2005年度業績および2006年度業績予想(連結)	P.5
2-1.	業績推移(連結)	P.6
2-2.	2006年5月期業績(連結)	P.7
2-3.	製商品・分野別売上高(連結)	P.8
2-4.	主要経営指標の推移(連結)	P.9
2-5.	2006年5月期貸借対照表(連結)	P.10
2-6.	2006年5月期キャッシュフロー計算書(連結)	P.11
2-7.	将来への投資(設備投資・減価償却費・研究開発費)	P.12
2-8.	今期の市場環境認識	P.13
2-9.	2007年5月期業績予想(連結)	P.14
3.	今後の成長戦略～新たな成長を目指して	P.15
3-1.	成長の方向性	P.16
3-2.	足下の課題	P.17
	【参考資料】高機能黒鉛製品とは	P.20

企業紹介

1-1. 企業概要

事業内容 高機能に特化した炭素製品メーカー

企業概要

設立 1947年7月

資本金 5,000百万円(2006年5月末現在)

本社所在地 大阪府大阪市西淀川区竹島5-7-12

代表者 代表取締役社長 近藤照久



沿革

1947年 近藤カーボン工業設立／カーボンブラシの製造を開始

1974年 大型等方性高密度黒鉛の量産化工場を設置(大野原工場)

1985年 詫間工場設置／等方性高密度黒鉛の生産能力増強

1987年 米国法人TTA, Inc 設立

1988年 フランス法人 GRAPHITES TECHNOLOGIE ET INDUSTRIE S.A.設立

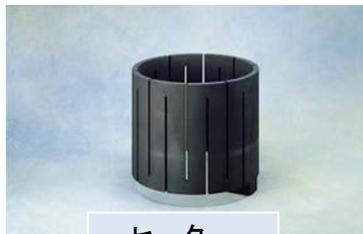
1994年 中国上海に上海東洋炭素有限公司設立

2006年 東京証券取引所市場第一部に株式を上場

1-2. 製品・分野紹介

特殊黒鉛製品

エレクトロニクス分野



ヒーター



るつぼ

一般産業分野



放電加工用電極

その他



ガラス封着用治具



高温ガス炉用炉心材

一般カーボン製品

機械用カーボン分野



ベアリング



パンタグラフ用すり板

電気用カーボン分野



小型ブラシ



大型ブラシ

複合材その他製品



バレル型サセプター



炭素繊維強化炭素複合材料
(C/Cコンジット製品)



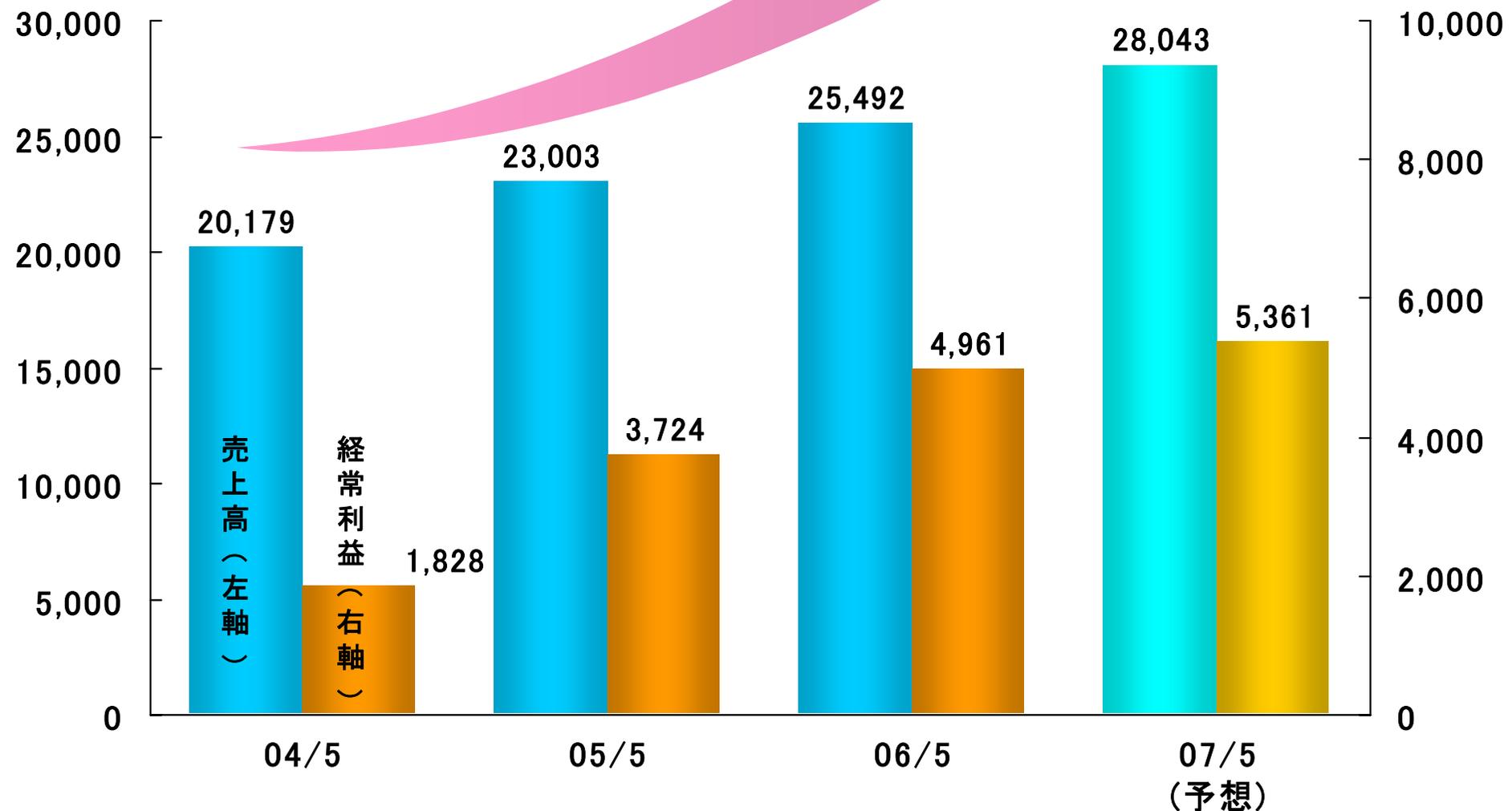
自動車ガスケット用黒鉛シート

2005年度業績および2006年度業績予想(連結)

2-1. 業績推移(連結)

引き続き過去最高の業績を達成

(単位:百万円)



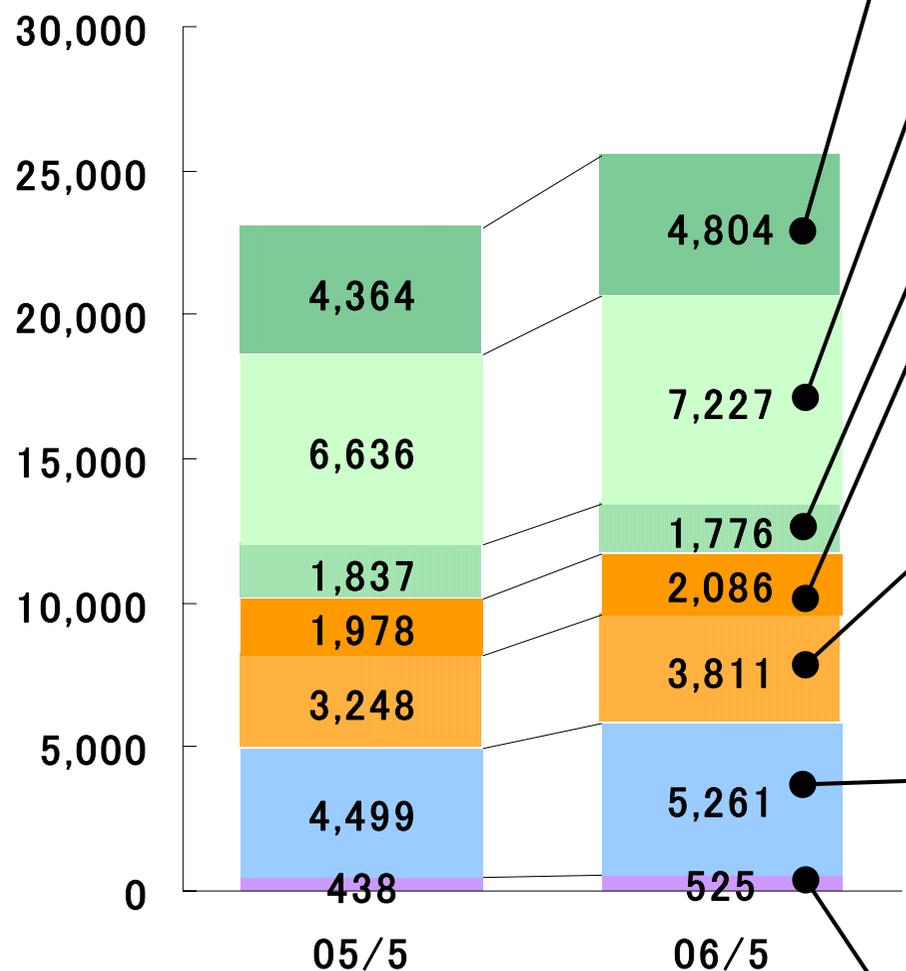
2-2. 2006年5月期業績(連結)

(単位:百万円)

	05/5	06/5	増減率	ポイント
売上高	23,003	25,492	10.8%	<ul style="list-style-type: none"> 各用途の旺盛な需要を背景に、生産性改善に伴う生産・販売量増と、高付加価値品へのシフトを含む販売価格アップに注力した結果、前期比10.8%増と二桁成長を実現。
営業利益	3,751	4,955	32.1%	
経常利益	3,724	4,961	33.2%	<ul style="list-style-type: none"> 上記増収に伴う限界利益増に加え、徹底した生産性改善によるコストダウンと採算性分析に基づく収益極大化努力により、前期比32.1%増と大幅増益を達成。
税引前利益	3,620	4,915	35.8%	
当期純利益	2,409	2,769	14.9%	<ul style="list-style-type: none"> 原油スワップ益・評価益112百万円および為替差益76百万円等を営業外損益に計上。
自己資本比率	55.8%	68.8%		

2-3. 製商品・分野別売上高(連結)

(単位: 百万円)



【特殊黒鉛製品・エレクトロニクス分野】

- シリコンウェハーマーカーにおける300mmウェハ製造ラインの増設ラッシュを背景に、単結晶シリコン製造用途向け需要が大きく伸長。また世界的な地球温暖化対策の一環として太陽電池製造用途においても需要急増。

【特殊黒鉛製品・一般産業分野】

- 好調な自動車需要に呼応し金型用放電加工分野拡大。液晶関連需要、高温炉等の工業炉関連需要も活発化。

【特殊黒鉛製品・その他】

【一般カーボン製品・機械用カーボン分野】

- 軸受け、シール材等の一般産業機械用途において国内景気の回復とともに需要が持ち直したほか、個別製品毎の採算性検証に基づく販売シフトと価格改定に注力。

【一般カーボン製品・電気用カーボン分野】

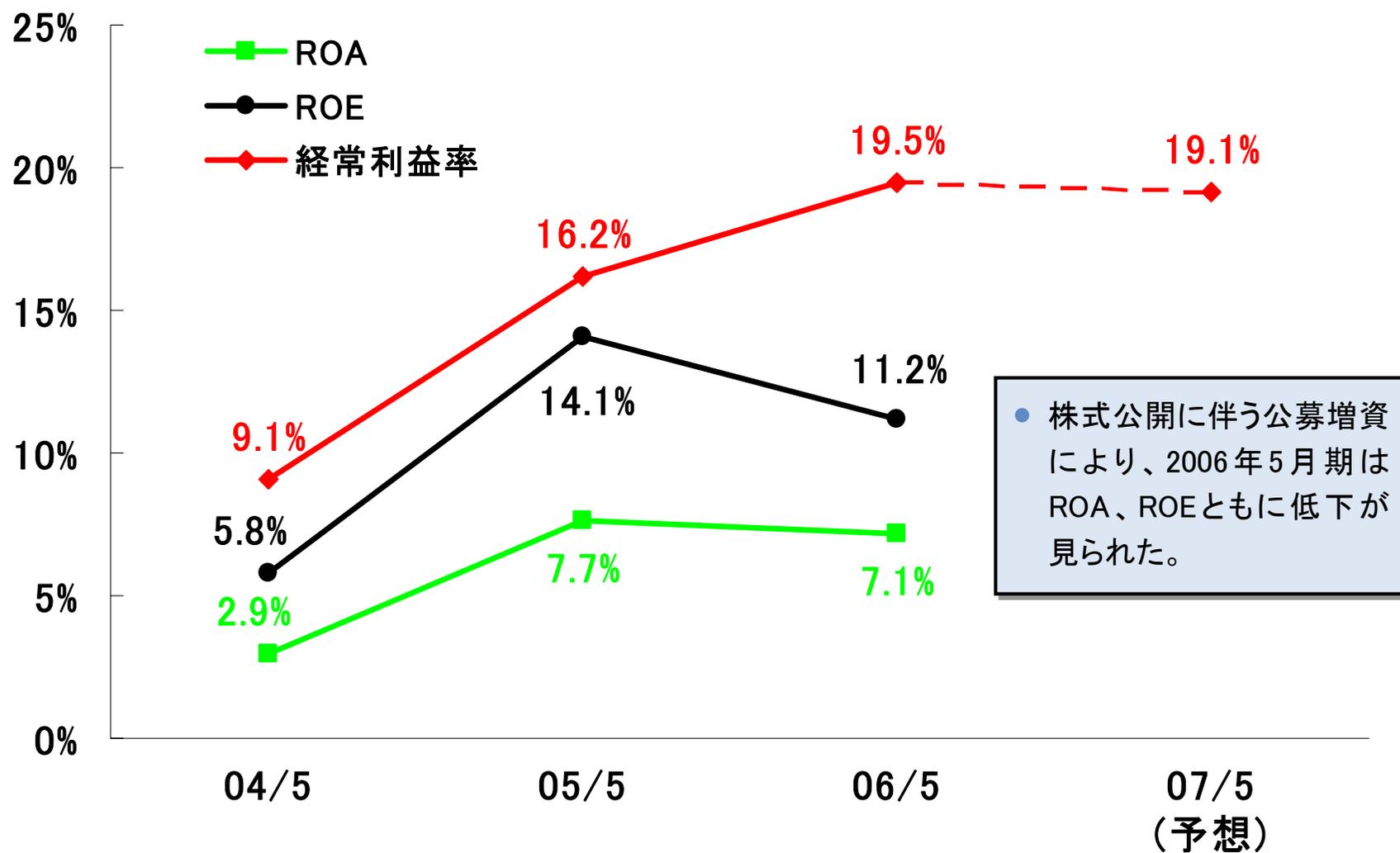
- 主力の家電モーター用小型カーボンブラシにおいて、顧客企業の中国生産シフトが進展したものの、その需要を中国現地法人の積極展開により取り込み順調に拡大。

【複合材その他製品】

- 半導体・電子部品等のエレクトロニクス関連市場の好調を受けて、SiCコーティング黒鉛製品の需要が大幅に増加。またC/Cコンポジット製品も、半導体・液晶・太陽電池関連市場の伸長等により大きく伸長。

【商品】

2-4. 主要経営指標の推移(連結)



2-5. 2006年5月期貸借対照表(連結)

(単位:百万円)

	05/5	06/5	ポイント
資産合計	32,467	45,112	
受取手形及び売掛金	7,498	8,283	
棚卸資産	5,292	6,061	
有形固定資産	12,811	15,804	<ul style="list-style-type: none"> 生産能力増強に備え、詫間事業所において、工場増築を先行。 また、今後の事業展開に備え、詫間事業所隣接地の取得。
負債・純資産合計	32,467	45,112	
有利子負債	6,725	5,110	
資本金	1,090	5,000	<ul style="list-style-type: none"> 株式公開に伴う新株発行により、資本金が増加。これにより、純資産の厚みが更に増し、自己資本比率は70%近くに向上。

2-6. 2006年5月期キャッシュフロー計算書(連結)

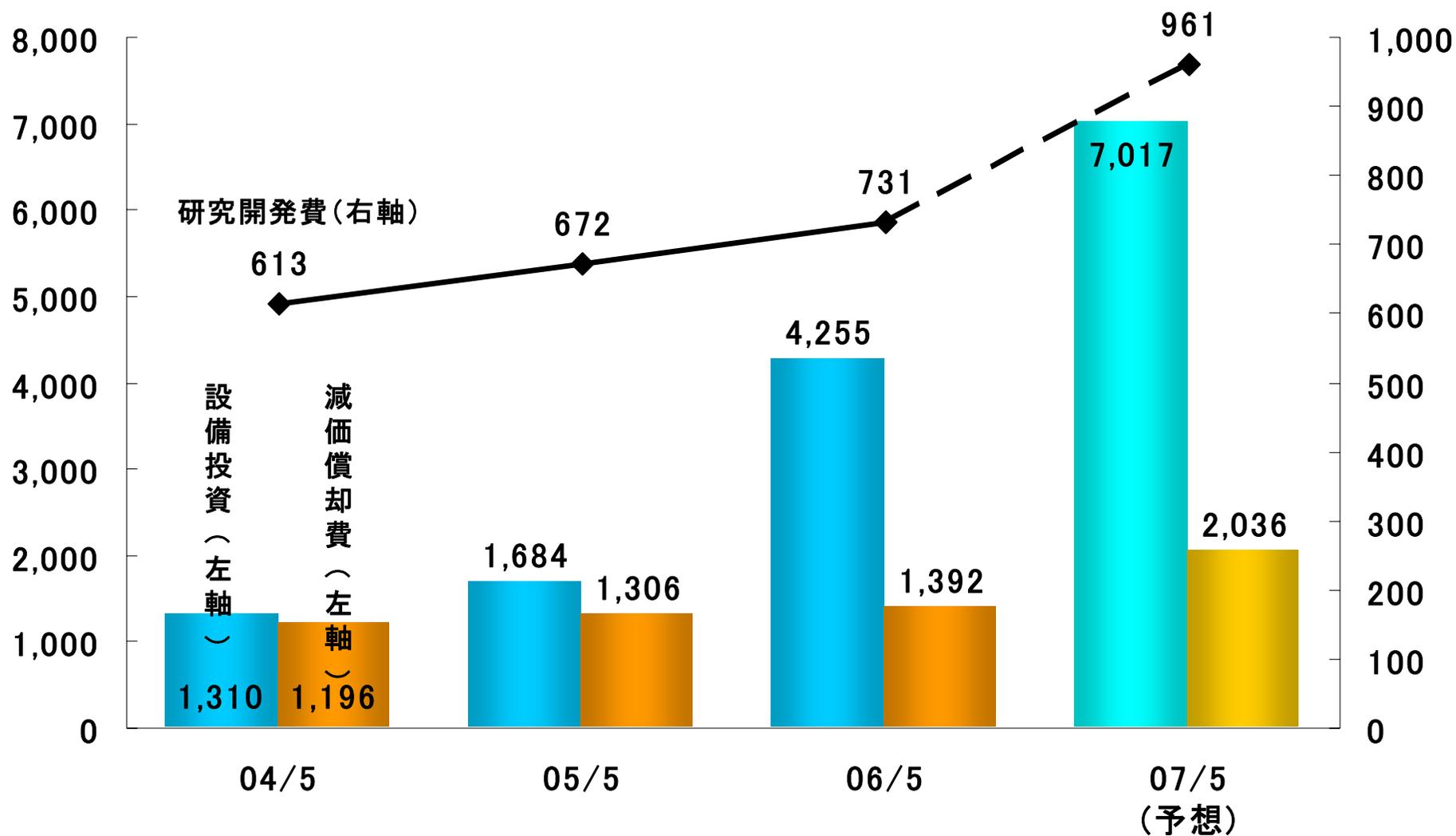
(単位:百万円)

	05/5	06/5	ポイント
現金及び現金同等物の 期末残高	2,031	4,867	
現金及び現金同等物の 増減額	219	2,614	
現金及び現金同等物の 期首残高	1,812	2,031	<ul style="list-style-type: none"> 05/5月期以降の業績の急拡大により、06/5月期における税金の支払額が前期比大幅に増加。
営業活動によるCF	3,632	2,554	<ul style="list-style-type: none"> 新株発行による調達資金の一部を定期預金に一時的に預け入れ、そのほか詫間事業所の工場増築、隣接地の取得に充当。
投資活動によるCF	▲1,711	▲8,036	
財務活動によるCF	▲1,642	8,016	<ul style="list-style-type: none"> 株式公開に伴う新株発行により、資金を調達。

2-7. 将来への投資（設備投資・減価償却費・研究開発費）

（単位：百万円）

（単位：百万円）



2-8. 今期の市場環境認識

【特殊黒鉛製品・エレクトロニクス分野】

- PC・携帯電話・デジタル家電の底堅い需要、アプリケーションの広がりと搭載量増により、半導体需要は年率10%増の見込み(WSTS予測)。300mmウェハー製造ライン増設の上積みも受けて、引き続き高水準の需要増見込み。太陽電池製造用途は、世界の太陽電池の約半分を占める日本の大手メーカーの増産計画等を背景に、引き続き需要は拡大。

【特殊黒鉛製品・一般産業分野】

- 自動車需要を中心に金型産業向け放電加工分野は引き続き好調、超微粒子構造の新素材を武器に積極拡販。大型薄型テレビの躍進に呼応した液晶関連の需要増に加え、高温真空炉等の工業炉関連需要も堅調に推移予定。

【特殊黒鉛製品・その他】

- 先端領域における等方性黒鉛の使用領域は引き続き拡大傾向。

【一般カーボン製品・機械用カーボン分野】

- 軸受け・シール材等の一般産業機械用途は、底堅い設備投資を背景に堅調な需要増が見込まれる。パンタグラフ用すり板等の輸送機器用途は、金属からカーボン系素材への素材代替の進展により拡大期待。

【一般カーボン製品・電気用カーボン分野】

- 主力の家電モーター用小型カーボンブラシにおける顧客企業の中国生産シフトの流れは継続、反面中国においては大幅な需要増が見込まれ、日本・中国・欧州の各拠点を活用したグローバル展開を加速する。

【複合材その他製品】

- 半導体・電子部品等のエレクトロニクス関連市場の継続成長を背景に、SiCコーティング黒鉛製品の需要は更に拡大。C/Cコンポジット製品、高純度黒鉛シートも、半導体・液晶・太陽電池関連市場の伸長等により、需要は一層伸長拡大予定。

2-9. 2007年5月期業績予想(連結)

(単位:百万円)

	06/5	07/5予想	増減率	ポイント
売上高	25,492	28,043	10.0%	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き旺盛な需要の下、下期からの寄与が見込まれる等方性黒鉛の生産能力増強を第一義に更なる用途開発と高付加価値化を推進し、前期に引き続き二桁成長を確保する。
営業利益	4,955	5,561	12.2%	
経常利益	4,961	5,361	8.1%	<ul style="list-style-type: none"> 設備投資集中に伴う減価償却費の大幅増を、増収と高付加価値化の推進によりカバーし、前期比12.2%増と継続的な増益を実現するとともに、営業利益率20%水準を維持する。
税引前利益	4,915	5,327	8.4%	
当期純利益	2,769	3,000	8.3%	
				<ul style="list-style-type: none"> 前記に計上した為替差益等の特殊な収益要因は予定していないものの、前期比8.2%増を確保する。

今後の成長戦略～新たな成長を目指して

3-1. 成長の方向性

成長のキーワード

3E

=

環境

+

エネルギー

+

エレクトロニクス

- 半導体、太陽電池等の市場構造の変化(継続成長へ)
- 供給力・技術力を背景とした更なるシェアアップ
- 他素材代替の推進(パンタグラフ用すり板等)

既存製品の拡大

海外展開

- 新たな地域(インド・ブラジル・ロシア・東欧等)への展開
- 中国市場での更なる積極展開(モーターブラシ・太陽電池関連製品の増産)
- 海外現地法人との連携強化によるグループ経営の推進

新製品の投入/
新規用途の開拓

- 複合材事業の積極拡大(SiCコーティング黒鉛、C/Cコンポジット、黒鉛シート)
- 超微粒子構造を実現した高機能グレード品の積極展開
- 原子力発電への世界的な見直し気運
- オンサイトフッ素発生装置事業の本格展開
- リチウムイオン二次電池用負極材事業・ヒートシンク事業の推進

3-2. 足下の課題(1/2)

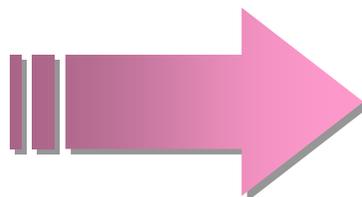
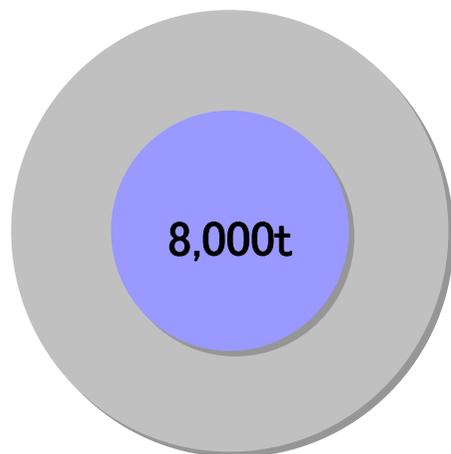
等方性黒鉛の生産能力増強と差別化推進

- 「既存用途の伸長」「新規用途開拓の推進」「グローバル展開の加速」に伴う等方性黒鉛の需給逼迫に呼応し、「高機能グレード品」を中心とする生産能力増強を図る。

等方性黒鉛の生産能力

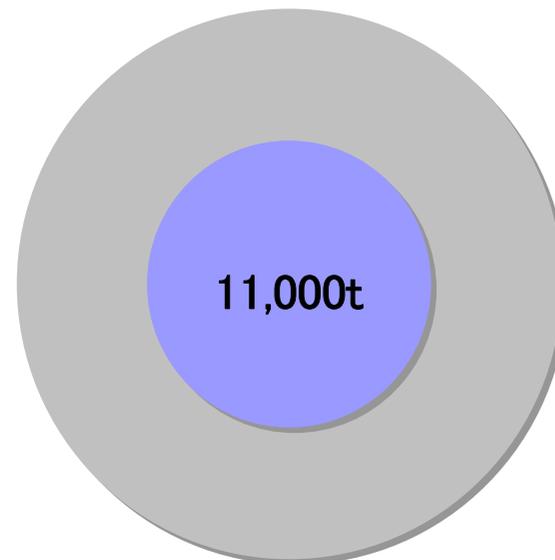
2005年

年産 8,000t



2008年

年産 11,000t体制



世界最大の等方性黒鉛製造工場・詫間事業所

3-2. 足下の課題(2/2)

オンサイトフッ素発生装置事業の本格展開

- 一般産業用に加え、本年度中に半導体LP-CVD装置向けに“より安全、低価格、高純度のフッ素”を提供する第一世代小型オンサイトフッ素発生装置を市場投入し、2008年度には本格展開を図る。

オンサイトフッ素発生装置

フッ素電解用電極



優位性の高いフッ素発生用炭素電極

電極開発で培ったフッ素関連技術

地球温暖化対策・環境問題対応

安全性・低コスト・高効率
(ガスボンベ供給と比較して)

当面のターゲット市場

a. 半導体分野

✓LP-CVD装置のドライクリーニング用ガス

現状NF₃ガスボンベ供給
(地球温暖化係数9700)

→

F₂オンサイト発生
(地球温暖化係数0)

希釈F₂ガスボンベ供給

→

安全,低価格,高純度

b. 一般産業分野

✓ポリマー表面改質 ◆撥水性

2007年米国加州
未燃焼ガソリン排出規制対応

→ ガスバリア性付与フッ素発生プラント

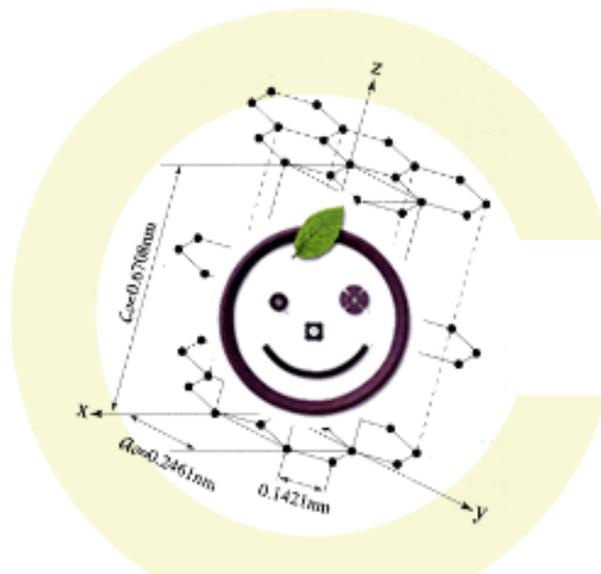
◆親水性

燃料電池用セパレータの濡れ性改善

将来のターゲット

エッチング用途、液晶用途(FPD-CVDクリーニング)、医薬・ケミカル合成等の大量にフッ素を必要とする分野

終わりに



元素記号C、原子番号6。
私たちの炭素の夢は、
未来へと無限に広がります。

$$\text{C} \times \text{TOYOTANSO} = \infty$$

【参考資料】高機能黒鉛製品とは

炭素(carbon)

ダイヤモンド

木炭

石炭

すす

黒鉛(graphite)

等方性黒鉛

東洋炭素の主力は等方性黒鉛

炭素の特性



1 自己潤滑性がある



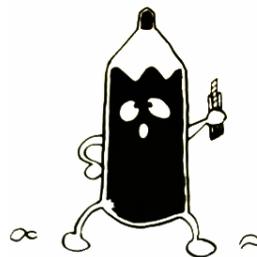
2 電気伝導性・熱伝導性が良い



3 耐薬品性がある



4 耐熱性がある



5 加工性がよい



6 軽量である

【参考資料】高性能黒鉛製品とは

黒鉛の特性

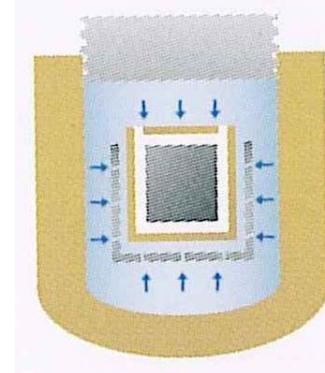
- 熱伝導性及び電気伝導性に優れる
- 高温、薬品への耐性が高い
- 軽量で加工が容易
- 摩擦、摩耗が起こり難い



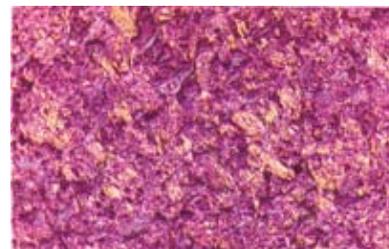
等方性黒鉛材料の特性

- 熱膨張性などの特性がすべての方向に均一
- 微粒子構造で高強度
- 材料の特性バラツキが非常に小さい

静水圧成形法



異方性黒鉛



等方性黒鉛

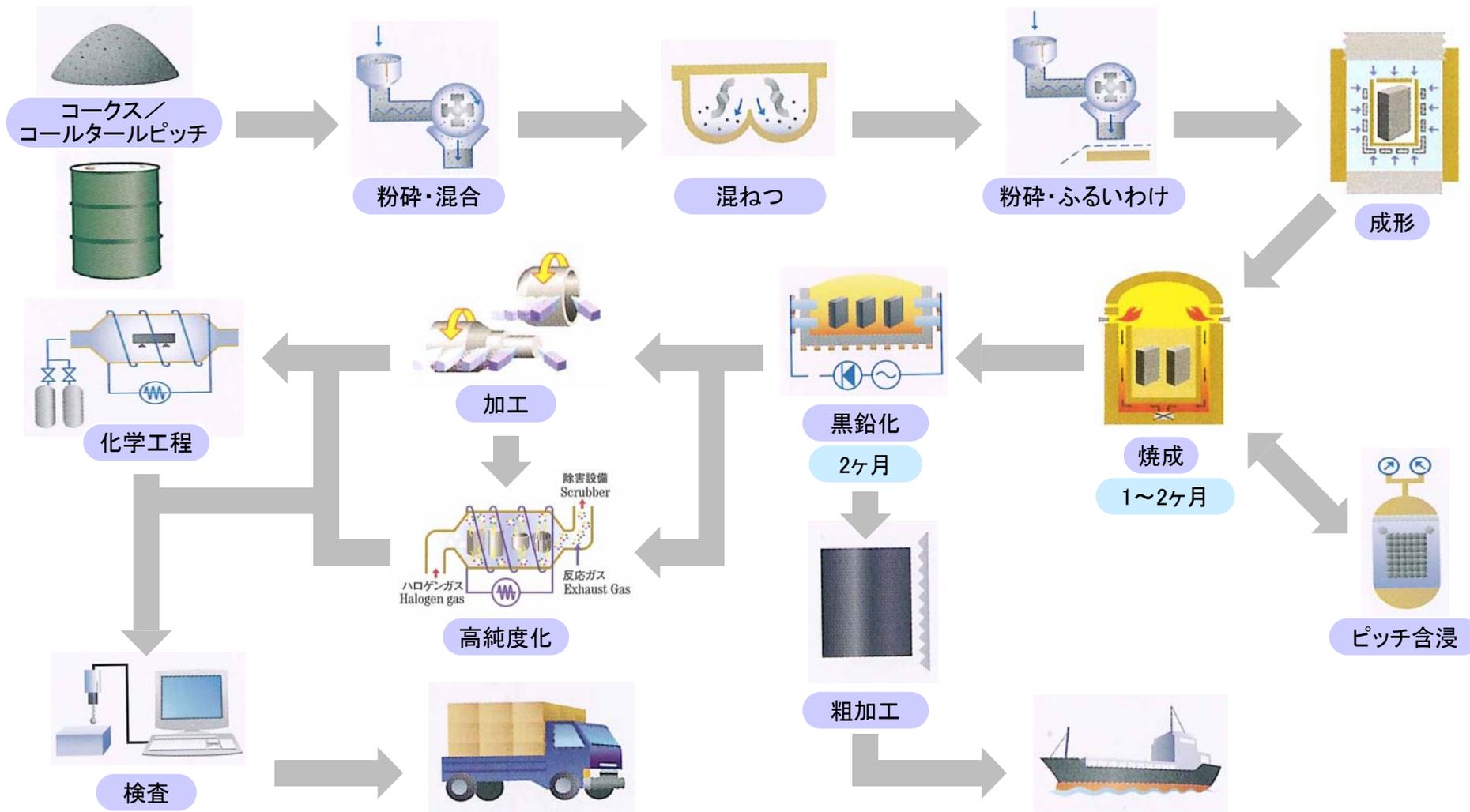


東洋炭素は、1974年に大型等方性黒鉛材料を量産化
現在も世界最大の生産量を誇るトップメーカー

【参考資料】高性能黒鉛製品とは

等方性黒鉛の生産プロセス

全生産期間はおよそ6～8ヶ月



ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、開示時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいますので、実際の業績は、業況の変化などにより異なる場合があります。したがって、当社の業績、企業価値をご検討する際には、これらの見通しだけに全面的に依拠することはお控えいただくよう、お願いいたします。